

日本コミュニティ心理学会第8回大会教育講演

7月2日 土曜日 午後1時半 - 3時 7.203室

社会構成主義とコミュニティ・アプローチ

講師 杉万俊夫先生（京都大学）

司会 北島茂樹先生（産業医科大学）

講演要旨

1. 2つのメタ理論 ---- 論理実証主義と社会構成主義
2. 社会構成主義の特徴
3. 社会構成主義に基づく研究（人間科学）の現場
 - ローカリティ
 - 価値・目的
 - 1次モードと2次モード
 - インターローカリティ
 - 理論
4. 意思決定のための理論と腑に落ちるための理論
5. コミュニティにおける協同的实践の事例

講師紹介

杉万俊夫（すぎまんとしお）

現在、京都大学大学院 人間・環境学研究科 共生人間学専攻 教授。

九州大学教育学部卒業（1974年）、九州大学教育学研究科修了（1979年）、学術博士（大阪大学、1987年）。

社会構成主義に基づくグループ・ダイナミックスの立場から、「現場に飛び込んで研究する」姿勢の重要性を強調。地域活性化、子育て・教育、医療・福祉、災害・防災、組織変革等の幅広い領域で、フィールドの当事者との協同的实践を展開しておられる。

日本グループ・ダイナミックス学会の会長（1994-98年）を務めたご経験があり、また、心理学関係者では異色であると思われるが、土木学会、水文・水資源学会の会員でもいらっしゃるの先生は現場主義を物語っていると思われる。さらに、International Association of Applied Psychology の機関誌編集委員を務めるなど、国際的にも精力的に活躍されている。

このように、学術的、かつ、実践的に幅広い領域で活動されている先生をお迎えし、教育講演を行っていただくことは、コミュニティ心理学会員にとって実りあるものになることが大いに期待できる。